

平成21年度一校一国運動活動状況報告書

金沢区 横浜市立並木第一小学校 対象国 カメルーン

- ・活動時期 7月～10月
- ・実施単位（学年） 6年生全員

（実施状況報告）

まず、交流会に向けて、6年生2クラスの各クラス内で個人またはグループを決めて、調べる視点を相談しながら、カメルーン naturally、文化、歴史、食べ物、気候、産業、学校生活などについてインターネットや図書資料を利用して調べ学習を行った。また、交流会当日の短い時間の中で、カメルーンのことを教えてもらったり、日本の文化を伝えるために何を紹介したりすればよいか、交流会のプログラムを話し合い、計画を立てて、当日の活動を楽しく進めることができた。ここでの取組がきっかけとなり、今後の取組のさらなる視点を広げることができた。



<7月交流会の様子>

その後、10月下旬に行う並一博での発表に向けて、カメルーンを中心にアフリカ諸国の文化や自然・歴史について調べていくことになった。また、本校には外国籍の子どもも多く在籍していることから、同様の視点で他の地域のことを調べ、カメルーンとの共通点や違いについても調べることにした。並一博（学校全体での学習発表会）では、6年生は、2～5人程度のグループに分かれ、「世界の国々との結び付きを考えよう」のテーマを基に、3つの教室会場で時間をずらしながら21のグループがそれぞれの視点について調べたことを発表した。カメルーンを中心としたアフリカに関する主な取組内容は、「アフリカの伝統的な家」「朝ご飯」「楽器の演奏や体験」「祭り」「動物」などである。

並一博の1週間ほど前から新型インフルエンザの流行により学年閉鎖となつてしまひ、発表内容のまとめ方や提示資料の作成が十分にできなかったグループも多くあったが、当日は、保護者や他学年の子どもたちの多くが参観したり、体験したりしてくれて、6年生の子どもたちは準備してきた発表内容を一生懸命に説明することができた。



<カメルーンなどアフリカで使われる太鼓の演奏>



<カメルーンなどアフリカ諸国での伝統的な家の紹介>

今後は、海外青年協力隊としてアフリカで活動してきた方を1月にお招きして、現地での活動の様子やそこで暮らす人々の様子などを聞かせていただき、これまでに学んできたことをさらに深めたり、将来の生き方の参考にしてもらおうと考えている。

（参加児童の感想）

- ・ハッサンさんやサンドラさんからカメルーンのことを教えていただいたことをきっかけにして、カメルーンや他のアフリカの国のことを調べましたが、日本と異なり、たくさんの自然が残っていたり、暮らし方がとてもおだやかだと感じたりしました。わたしたちはいろいろな物にあふれた中で便利に暮らしているけれど、なんだかあわただしくて、アフリカの暮らし方がうらやましいなと思うこともありました。
- ・カメルーンや他のアフリカの国々には、ぼくたちがテレビの番組や動物園でしか見ることのできない動物たちがたくさんいて、動物たちが生活できる環境を守ることが大事にしていることが分かりました。日本でそのような環境がなくなつてきていることがよく報道されているので、ぼくたちも見習っていきたいと思います。